

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第285回

森 信三

の名言

発行：入試広報室

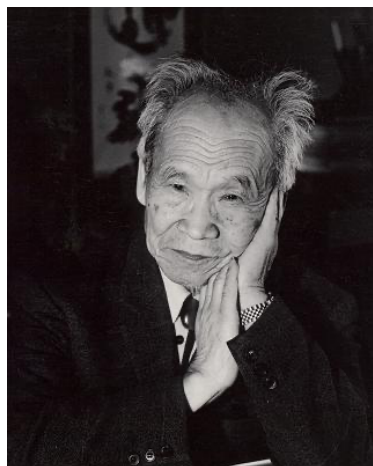
発行日：令和3年12月20日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉

人間は一生のうちに逢うべき人には
必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、
一瞬遅すぎない時に。

森 信三は、日本の哲学者・教育者。通称、しんぞう。



Column

非常に有名な言葉です。私はこの言葉を知った時にこれまでの人生を振り返ってみて“確かに！”と思う出会いが多いと感じたことから人生の『心得』として心に留めています。中には『いやいや、そんなにジャストなタイミングばかりじゃないでしょ！』と思う人もいるのではないのでしょうか。その理由として、例えば“逢うべき人”とを感じるような人には『もっと早く出会いたかった』という意味で“遅い”と感じるのでしょうか。苦手だと感じる人には“そもそもこの人は自分にとって逢うべき人ではない”と感じるのでしょうか。ライバルに対しては『もう少し自分に力がついたら後に逢えたら確実に勝てるのに…』という意味で“早い”と感じるのでしょうかね。

私の中では今回の言葉のように『逢うべき人』と“限定”して考えていません。これまでの自分の人生における様々な人との出会いの中で“この人には逢うべきではなかった”という人はいないと感じています。もちろん苦手な人もいます。しかし、そういった人とのやり取りから得た“学び”や“気づき”が自分を成長させてくれたと感じる部分があるからです。“タイミングのズレ”を感じるはその時の自分の“余裕”によるのではないのでしょうか。常に自分を客観視することは非常に難しいことですから、毎回『この人ちょっと苦手だけど私を成長させるために必要なことを言ってくれている』と素直に感じることはなかなか難しいとは思いますが、『今に見てろよ…』というガッツを自分の中で湧き上がらせることができればやはりその人も自分にとって逢うべき人と言えるのではないのでしょうか。

先に述べたように私は今回の言葉を『心得』としています。そして、今回の言葉を“人以外”にも当てはまるものとして考えています。例えば様々な“出来事”についてもです。目の前に起こる出来事に対して『こんなことして何の意味（得）があるの？』と思うこともありますが、その当時は『自分ばかりが損な役回りだ…』とストレスに感じていたものの、『あの頃の苦労のおかげで今がある』と感謝できることも少なくありません。“運命”という大げさかもしれませんが、全てに意味があり、全てが未来につながっていると思って過ごすことによって人生を『宝探し』に近い感覚で楽しむことができると私は考えています。実はみなさんの周りにはまだまだ見つけられていない宝物がたくさん散らばっています。みなさんの心のアンテナは宝物探知機です！高く伸ばしていきましょう！